

「デジタル複合機」 選びのポイント

全国40名の法人営業所長が明かす「デジタル複合機を賢く選ぶポイント」を紹介しよう。現状ではA4、A3、カラー、モノクロと、ラインアップの幅が広く、価格も10万円を切るものから100万円を超えるものまで、さまざま。その中から用途に応じた最適のモデルを選ぶための、プロのアドバイスとは!?

ビジネスプリンター市場が好調だ。中でもこの1年ほどは、デジタル複合機(レーザー複合機)の出荷台数が伸びている。

IT系調査会社大手のIDCジャパンがこの6月に発表した2006年第1四半期(1-3月期)の国内デジタルMFP(デジタル複合機)市場動向によれば「プリンター機能に加えて複写機能、スキャナー機能等、コンピューターとの連携機能を備えたデジタルMFP全体の出荷台数は18万4000台、前年同期比17%の増加」だという。

特にカラー複合機の構成比が高まっており、06年第1四半期のカラー機の出荷台数比は50%。これは前年同期比で5ポイントの増加である。

実際、ヤマダ電機の全国の営業所長からもデジタル複合機の好調さを伝える声が多く聞かれる。

「2~5名程度の小規模事業者の、A4モノクロ機購入が目立つ。今まで家庭用FAXなどでまかなっていたが、処理能力に不満を感じての置き換えが多い」(富山営業所/以下、地名のみ表記)

「FAXからの買い換えが多い」(厚木)

「小型コピー機からの、置き換えが多い」(金沢大桑)

「複合機というよりもコピー機としてのニーズが強いようだ」(江南)

「レーザープリンターからの買い換えが目立ってきた。特に小規模オフィスで」(練馬)

では、デジタル複合機ではモノクロ機とカラー機のどちらの需要が、ヤマダ電機では多いのだろうか。こ

れについては営業所によって、まったく異なる意見が聞かれた。

「A4モノクロのニーズが9割以上を占めている。購入ユーザーもSOHOがほとんど」(鈴鹿)

「まだカラーを出力するというケースは少ないと思う。カラー機も安くなったとはいえ、モノクロ複合機がさらに安くなっているので、たまに使うカラーで高いものより、割り切ったモノクロ使用のみ、という考え方が多いようだ」(奈良南)

「コンスタントに売れている。ほとんど小規模事業所、SOHO。A4モノクロのニーズが多数」(貝塚)

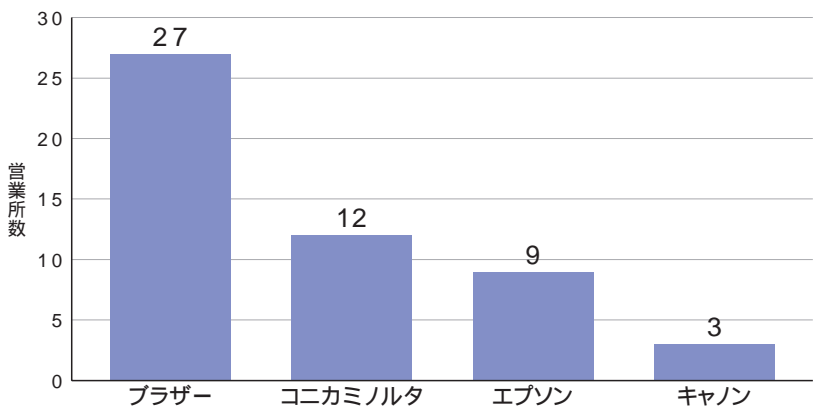
「カラーを出力するというニーズがあまりなく、モノクロ複合機の値段が下がっていることもあり、とりあえずモノクロとの傾向を感じる」(博多)

「モノクロ機よりカラー機のウェートの方が高い。社内ネットワーク化のためや、1台にまとめたというニーズが増えてきた」(帯広)

「モノクロ機とカラー機が半々だが、最近ではカラーが伸びてきている」(函館)

「カラー機とモノクロ機は4対6ぐらいだが、最近ではカラー機が増えて

図) デジタル複合機売れ筋ブランド



シャニム編集部が7月に行なった法人営業所長40名への電話/面談調査による。販売実績・シェア等とは一切の関係がない。

きている」(宇都宮)

「カラーはA3の方が出る。A4はインクジェット(IJ)で十分というケースが多い。モノクロのニーズは減ってきたように思う」(八戸)

ブラザー

A4モノクロでは圧倒的人気

図は06年7月に、40名のヤマダ電機法人営業所長から聞き取った「デジタル複合機売れ筋ブランドランキング」だ。売れ筋と感じているブランド名を感覚的に回答してもらい、その数をまとめたもの。

ここに上がった4社の主力機は、安いものは10万円以下、高いものは100万円以上と価格帯が大きく異なる。そのため単純比較はできないが、市場におけるユーザーのタイプ志向を把握する上で参考になる。

トップのブラザーだが、調査時の主力モデルはA4モノクロ機MFC-8820JN、MFC-7820N、MFC-7420、A4カラー機MFC-9420CNなど。まず主力のA4モノクロ機は、豊富なラインアップやコストパフォーマンスの高さ、コンパクト性などで人気が高い。

「7820、7420がA4モノクロ機ニーズを取り込んでいる。コスト、スペックなどのトータルバランスがよいのではないか」(武生)

「ブラザーはA4複合機なら競合がないうくらいトータルにお勧めできる。プリント、コピーする書類がA4なのでA3は必要ないとのこと」(小牧)

「7420が一番の売れ筋。FAX、コピー、コスト、どれをとってもバランスがよく、説明すれば納得される商品」(鈴鹿)

「7420はトータルバランスの評価が多いが、一番はイニシャルコストの安さだと思う。それぞれの機能を単

体機でそろえるよりも断然安い」(一宮)

「7010の需要が多い。家庭用コピー機からの置き換えなど、コピーを重視しているユーザーが目立つ」(今治)

「8820、7420が好調。ブラザーは長くこの分野をやっているだけあって、ツボを心得ているような気がする」(周南)

8820はブラザーのA4モノクロ機のフラッグシップモデルだが、現在はモデルチェンジし、MFC-8870DWがトップモデルになっている。

一方、A4カラー機の9420も着実に評価を高めている。決め手はいくつかあるが、IJと比較した場合のランニングコストの安さを上げる声が多い。

「9420はちょっとしたチラシなどを内製したい場合は手頃。ランニングコストが安い」(金沢大桑)

「9420は圧倒的にSOHOユーザー。最初はブランドに疑問を持つことも少なくないが、説明すれば納得いただける」(浜松)

「9420が強い。用途は今までコンビニなどでコピーしていたものを内製

したり、チラシを自社で制作するなど。IJ複合機からの置き換えもある。ランニングコストは、レーザーの方が安いと聞いて来店される方も多い」(武生)

「9420はIJからの買い換えが少なくない。結局、多く出力しようと思うとコスト安になるので」(寝屋川)

「ちょっとしたチラシ、POPなどを内製化したいユーザーが購入している。それまでIJのランニングに不満を持ちながら使っていたユーザーの置き換え」(日進)

コニカミノルタ

高評価の保守サービス体制

2位のコニカミノルタの主力はA3モノクロ機bizhub162F-Rだ。コピー、FAX、プリンター、スキャナーの4役すべてがA3対応で、しかも30万円台という価格の安さが評価されている。

「162F-Rは着実な動き。コピー機がほしいというケースが多い。商談は最初、エプソン5500FZから入ることも多いのだが、耐用年数や耐久枚数などを重視する場合、162F-Rに決まることが多い」(山形)



デジタル複合機需要は急速に伸びている。

「162F-Rで決まるケースが多い。一番のニーズはA3が使えることで、そこからカラーかモノクロかになるが、ほとんどはモノクロニーズ。結果値段の安さもあって162F-Rで決まる」(半田)

「162F-RはA3を使いたいユーザーにはとても安い商品。その他の機能もしっかりしている」(富山)

「A3を必ず使いたいというユーザーに勧めている。価格が安く納得して買われることが多い」(一宮)

「モノクロニーズが大半で、A3もたまに使用したいとなると162F-Rに落ち着く。大企業の地方営業所のような場所など」(寝屋川)

「162F-Rは価格が安く、勧めることが多い。コピー機の置き換えには最適」(足立)

商品力もさることながら、保守・メンテナンス体制のよさから選ばれることも多い。購入時にオプションのメンテナンス契約を結ぶと、万が一故障した場合は専門サービス技術者が訪問修理してくれる。これを安心感と考えるユーザーは多いようである。

「162F-Rは店頭で勧めると興味を示すユーザーが少なくない。高くても保守に重点を置いたらお勧め」(浜松中央)

「コニカミノルタを選ぶユーザーは、サポートを重視することが多い」(春日井)

「コニカミノルタは、維持費が高くても保守をメーカーに任せたいというユーザーが購入している。エプソンのようなメンテナンスフリーの考え方が一方で、保守を重視するユーザーも多い」(丸亀)

「コピーの買い換えには162F-Rを推奨。保守を考えても一番のお勧め。

コピーのリース契約が終わったユーザーが検討することが多い」(秋田)

コニカミノルタにはA3カラー機bizhub C250もある。こちらはメーカー希望価格130万円以上という本格的な業務用マシンだが、やはり保守体制を評価する声が少なくない。

「C250は保守を重視しているユーザーが、多少価格が高くてでも(それでも安い)が購入する」(今治)

「C250は確かに高い。しかしコピー機としての性能や、保守体制などから見ればいい商品」(浜松中央)

「C250はそれぞれの機能(FAX、コピー)をしっかり使い、なおかつメンテナンスを任せたいユーザーに向いている」(日進)

「C250はコピーチャージをメリットとしてとらえるユーザーに最適」(富山)

「値段が高くてでも保守を任せたいというニーズに合致」(金沢大桑)

エプソン

指名買いの多さは断トツ

「エプソンが一番人気。アフターサービスもよく、店としても勧めやすい」(帯広)との声があるように、やはりエプソン人気は根強い。複合機の主力はA3カラー機のLP-M5500FZ。プリンターから発展したモデルで、A3カラー対応ながら30万円台という価格の安さは、これまでの常識では考えられなかったものだ。

「5500FZが一番人気。中小企業が多く、コピーやFAXの単機能機からの置き換えが多い。店としても勧められているが、詳しい方も多い」(函館)

「指名はエプソンが多い。5500FZの知名度が浸透してきたように思う。

コピーとプリンターを1台にまとめたというニーズ」(八戸)

「5500FZはトータルで安価なものを求めるユーザーに人気」(江南)

「5500FZはカタログなどを持ってきて即見積もりを求められることも多い」(寝屋川)

「コスト重視のユーザーにウケがいい。他メーカーとは、コンセプトの差別化がある」(丸亀)

「5500FZはプリンターを主用途として、A3頻度は多くないが、いざという時には使いたいというユーザーに最適」(秋田)

「5500FZは複合機の売れ筋。指名が多く、他機種を説明してもエプソンを選ぶ」(宇都宮)

5500FZの場合、コピー機メーカーのA3カラー複合機とは異なり、コピーチャージ(出力枚数に応じた従量制課金)不要という点もポイントだ。

「5500FZは小規模事業者、専門学校、大学の研究室などに納入。コピーチャージが不要のメンテナンスフリーが購入動機」(日進)

「5500FZはたまにA3を使いたい、トナーがどこでも入手できるなどが利点」(富山)

「指名で選ばれることが多い。メンテナンスフリーのコストの安さが認知されてきている」(和歌山)

「5500FZは小規模事業者、大学などにウケがいい。コピーチャージ不要が最大の売り」(今治)

5500FZの課題として聞かれることは、A3のFAXに対応していないこと。これは、A3 FAX使用頻度とコストとの兼ね合いで、頻度の低いA3 FAXよりもリーズナブルな価格の実現を重視したためだ。ここをどう考えるかがポイントだろう。

営業所長からは「FAXがネックになる場合もある。しかし、ここを割り切れればインシタルも安く、いい商品」(小牧)「A4のFAXを理解すればお買い得」(奈良南)との声が多く聞かれる。また、もう1つのチェックポイントとして「使用頻度」を上げる声もある。

「オーバーホールのコストなどを考えて、主に印刷量の少ないユーザーに勤めている」(山形)

「表示パネルが小さく、拡大縮小などがやりづらい。また、毎月の出力で3000枚が1つの目安ではないか。それらを納得いただけるユーザーには5500はいい商品」(三条)

「ヘビーユーザーだとドラム交換が2-3年で必要なケースもある。そのコストをどう考えるかだろう」(盛岡)

キヤノン

ブランドの信頼度は抜群

キヤノンのA4モノクロ機の主力はMF6570、MF5770、MF3220など。特長としては指名買いの多さである。

「キヤノンはあらかじめカタログなどを持ってきて、ほぼ指名で買われる。キヤノンの品質のよさ、信頼感が購買に結びつく」(鈴鹿)

「5770は指名で買われることがある。キヤノンという信頼感」(富山)

「5770はキヤノンブランドを信頼するユーザーが買っていく。価格が少しぐらい高く、スペックが見劣りしても選ばれるのはブランドによる強み」(奈良南)

相変わらず根強いブランド人気といえよう。特にA4カラーレーザープリンターではLBP5000の好調が伝え

られ、新製品LBP5300を評価する声も多い。だが、デジタル複合機は「指名客以外には購入されにくい」(丸亀)といわれるように、万人受けする大ヒットモデルに欠けている。多くの営業所長が、価格の高さやボディの大きさなどを課題にあげているだけに、これらの声にどう応えるかが次の注目点であろう。

OKI

耐久性、印字品質に高支持率

OKIの主力モデルはA4カラー機のC5510MFPだ。現状では大ヒットとはいえないが、主にカラープリンターで培ってきた印刷品質や耐久性などを評価するユーザーからの根強い支持を集めている。

「5510は今までマイクロラインを使用していてOKIのよさが分かっている人が購入。クオリティ重視のユーザーには評判がいい」(武生)

「5510はOKIならではの品質を訴えるような説明をすると納得いただける」(春日井)

「マイクロラインを知っているユーザーは、品質の高さに関心が高い」(貝塚)

「耐久性やネットワーク標準などで、安心して使ってもらえる機種。スペース効率もかなりよくなってきたと思う」(盛岡)

5510で特徴的なことは、営業所長が個人として、その商品力を評価するケースが多いことだ。

「商品としては魅力ある。だが、ユーザーへの知名度が足りないのだろう。新製品は小型化され、耐久性も高い。時期がくれば売れるようになると思う」(仙台東)

「最近のモデルはデザインが洗練されてきた。カラー印刷重視のユーザーには、これから評価されるのではないか」(足立)

「売れ行きが芳しいとまではいえないものの、耐久性などアピールできるポイントは多い」(浜松中央)

現状のOKIのラインアップは、A3カラーのC8600dnやA4カラーのC3400nなど単機能のカラーレーザープリンターが主力だ。こちらの市場では印字品質の高さや優れた耐久性などで定評があるだけに、この評価をカラー複合機にどうつなげるかが今後の課題といえそうである。



モデル選びの第一歩は用途の明確化から。

A3カラー複合機

エプソン「LP-M5500FZ」

多機能を集約した オールインワンモデル

FAX機能などを標準装備
増設オプションで最大1900枚の大容量給紙
モノクロ印刷・コピーは高速40枚/分を実現

オフィリオ複合機「LP-M5500」シリーズの中で、様々な機能をコンパクトに一体化したセットモデルだ。プリンターやコピー、スキャナーに加えてFAXを搭載。ADF、両面印刷やネットワーク機能などに標準で対応している。しかも、専用ラックやA3～B5に対応する増設カセット1段を備えており、標準で900枚の用紙をセット可能。

さらにオプションで最大1900枚という大容量給紙も可能だ。印刷やコピーはモノクロ40枚/分、カラー10枚/分を実現。スキャナーではUSBメモリーにスキャンデータを直接保存できるなど、機能・利便性とも充実している。何よりも、これだけの機能を備えたコストパフォーマンスの高さが魅力である。



<http://www.epson.jp/products/offirio/mfp/>

A3モノクロ複合機

コニカミノルタ「bizhub 162F-R」

様々なオフィスで活躍する 万能モデル

FAX機能を標準搭載
待ちのストレスを軽減する高速稼動
利便性の高い多彩なコピー機能

コピー、プリンター、スキャナー、FAX機能を標準搭載したモノクロ専用モデルだ。様々な機能を備え、SOHOや小規模オフィスのメインマシンとしてはもちろん、企業のデスクサイドなど幅広いシーンで利用できる。特にコピー関連機能は必見。電源ONから30秒以内で稼動状態、ファーストコピーは7秒以下で待ちのストレスを軽減している。

ページ順に1部ずつ出力する「電子ソート/交互ソート」や「90度回転コピー」、2枚もしくは4枚の原稿を1枚に出力できる「2in1/4in1」などの機能を搭載。ID番号によるコピー制限や、部門ごとにコピー枚数を管理することもできる。オプションで最大1600枚の給紙に対応しており、用紙補充の手間を低減できることも特徴である。



<http://konicaminolta.jp/products/business/printers/>

A4モノクロ複合機

ブラザー「MFC-8870DW」

書類を効率的に電子化できる多機能モデル

自動両面印刷/スキャン機能を標準装備
無線LANにも標準対応
高いセキュリティ機能で情報保護にも対応

プリンター、コピー、スキャナー、FAX/PC FAXなどの機能を集約したモノクロ複合機だ。多彩な機能がコンパクトにまとめられており、SOHOやワークグループ、店舗などに適したモデルである。自動両面印刷機能を備えており、コピーやFAXでも使用可能。標準搭載の自動両面スキャンと併用すれば、両面原稿のコピーもできる。有線/無線LANに標準対応し、オフィスの自由なレイアウトを実現する。

さらにメンテナンスやセキュリティも充実。給紙や排紙、トナー交換などはすべて前面操作が可能だ。パスワードによる利用制限、指定パソコンのみからのアクセス、任意の語句をプリントできる「すかし印刷機能」など、高い安全性を実現している。



<http://www.brother.co.jp/jp/mfc/mfc.html>

デスクトップで使える高速A3対応モデル

A3カラー機で最小クラスの省スペース設計
 カラー26枚 / 分の高速印刷
 生涯印刷60万ページの高耐久性を実現

「スマート・アンド・タフ」を掲げるCシリーズの1ラインナップで、そのコンセプトである「小型」「高速」「耐久性」を具現化したモデルだ。最大の特徴は、幅485×高さ341×奥行き648mmに重さ約32kgという最小クラスのコンパクトボディ。A3カラー機ながらデスクトップに設置して使えるほどだ。小型プリンターヘッドやシンプル機構を特徴とする独自のデジタルLED方式により実現可能となった。

印刷スピードはモノクロ32枚 / 分、カラー26枚 / 分と高速。生涯印刷ページ数は約60万枚で、年数換算すると約5年と業界最高水準の耐久性を実現している。自動両面印刷やネットワークに標準対応、標準給紙容量約400枚と機能も充実している。



<http://www.okidata.co.jp/products/color/>

コンパクト・低価格を実現した高速モデル

カラー、モノクロとも21枚 / 分の高速印刷
 ウォームアップ時間0秒でストレスフリー
 メンテナンス効率と設置自由度をアップ

カラーレーザープリンターで人気が高い「LBP5000」シリーズの派生モデルだ。高速・高性能で、SOHOや小規模オフィスのメインマシンから、企業内ワークグループのサブプリンターまで、幅広く利用できる。CMYKの4色を一度に印刷するタンデム方式を採用し、カラーとモノクロのいずれも21枚 / 分の高速印刷が可能。

独自のオンデマンド定着方式により実現したウォームアップ時間0秒という機動性とあいまって、高いパフォーマンスを誇る。給紙や排紙、トナー交換などを、すべて前面で処理できる「フルフロントオペレーション」トナー / ドラム一体カートリッジなどの採用によりメンテナンス効率がいい。設置場所の自由度が高いことも魅力である。



<http://cweb.canon.jp/satera/lbp/>

表) ビジネスプリンターの主要スペック

機種名	LP-M5500FZ	bizhub 162F-R	MFC-8870DW	C8600dn	LBP5300
メーカー名	エプソン	コニカミニolta	ブラザー	沖データ	キヤノン
タイプ	カラー複合機	モノクロ複合機	モノクロ複合機	カラーレーザー	カラーレーザー
最大記録紙サイズ	A3対応	A3対応	A4対応	A3対応	A4対応
モノクロ印刷速度	40枚 / 分	16枚 / 分	24枚 / 分	32枚 / 分	21枚 / 分
カラー印刷速度	10枚 / 分			26枚 / 分	21枚 / 分
モノクロコピー速度	40枚 / 分	16枚 / 分	24枚 / 分		
カラーコピー速度	10枚 / 分				
スキャナー解像度 (dpi)	600 × 1200	600 × 600	600 × 2400		
FAX送受信速度 (kbps)	33.6 (スーパーG3)	33.6 (スーパーG3)	33.6 (スーパーG3)		
標準給紙容量 (カセット / トレイ)	750枚 (*2) / 150枚	300枚 / - (*4)	250枚 / 50枚	300枚 / 100枚	250枚 / 100枚
最大給紙容量 (*1)	1900枚	1600枚	550枚	930枚	850枚
両面印刷	標準	非対応	標準	標準	標準
ネットワーク対応	標準	オプション	標準	標準	標準
本体サイズ (W × D × H mm)	656 × 563 × 1141	607 × 620 × 589	531 × 450 × 475	485 × 648 × 341	412 × 453 × 437.7
重さ (g)	約71.5 (*3)	約44	約16.7	約32.3	約22
メーカー希望価格 (円、税込)	480,900	609,000	オープン	186,900	134,400

印刷条件などスペックの詳細については、カタログやメーカーHPを参照してほしい

(*1) オプションでカセットを増設した場合の最大容量 (*2) 標準カセット250枚 + セットの増設カセット500枚 (*3) プリンター部45.2kg + スキャナー部26.3kg、ラックや増設カセットなどは除く (*4) 手差し対応1枚